

# ONE

OCEAN NETWORK EXPRESS

2019年度第3四半期決算説明資料

2020年1月31日

# 2019年度第3四半期決算(第3四半期実績・第4四半期予想)

## 下期及び通期業績見込み 対前回予想比較

\*2019年10月時点

(単位：百万US\$)

	2019年度(前回予想)*				
	1Q 実績	2Q 実績	上期 実績	下期 予想	通期 予想
売上高	2,875	3,109	5,984	6,125	12,109
税引き後損益	5	121	126	-66	60

2019年度(最新予想)						
1Q 実績	2Q 実績	上期 実績	3Q 実績	4Q 予想	下期 予想	通期 予想
2,875	3,109	5,984	2,914	2,980	5,895	11,879
5	121	126	5	-49	-45	81

通期	
増減	増減 (%)
-231	-1.9%
21	33.8%

燃料油価格(US\$/MT)	\$432	\$419	\$427	\$508	\$469
----------------	-------	-------	-------	-------	-------

\$432	\$419	\$427	\$417	\$561	\$488	\$457
-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

-\$12
-------

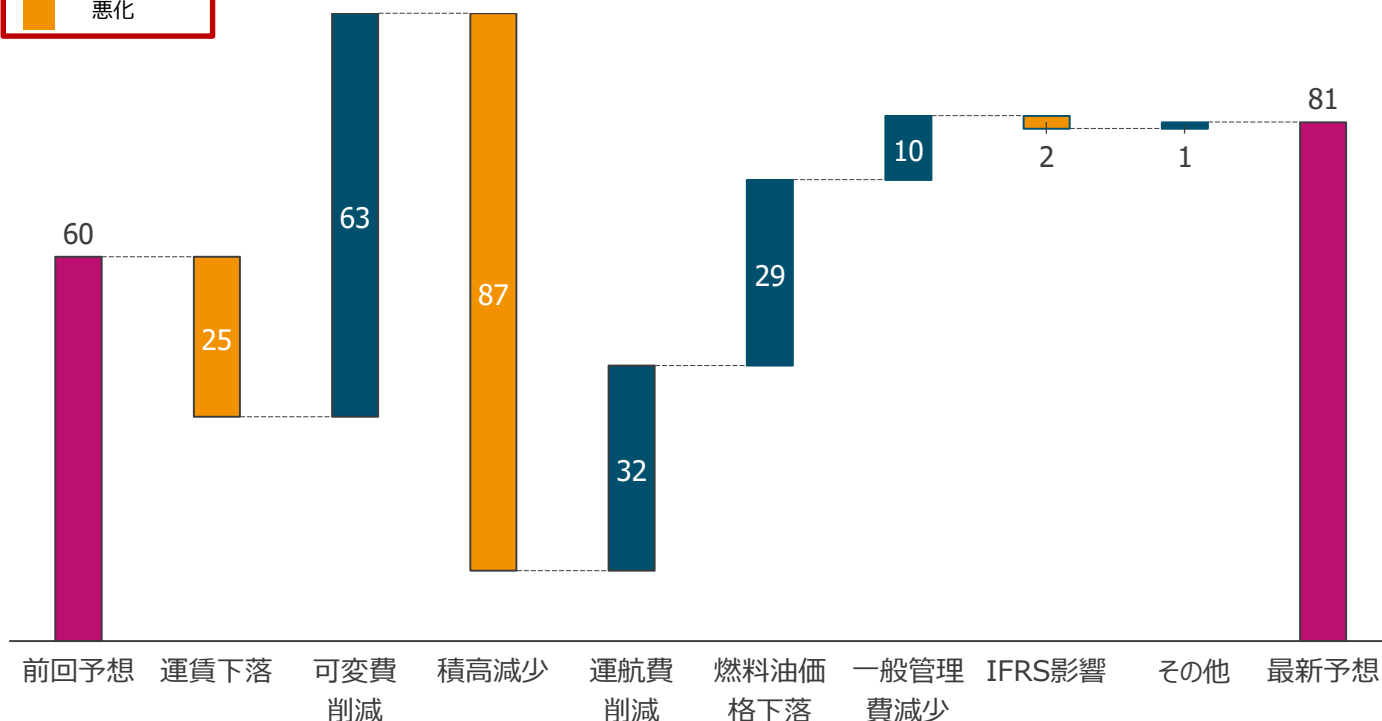
- ❑ 第3四半期は5百万US\$の黒字を計上(3四半期連続での黒字決算)
- ❑ 通期予想は81百万US\$に上方修正(対前回予想比 +21百万US\$)

- 全体の荷動きは、1月下旬の旧正月に至るまで、東西航路及び南北・アジア域内航路全般についてほぼ想定通りに推移した。12月には、1月から課徴される新たな燃油サーチャージを回避する為の若干の駆け込み出荷が見られたのも、荷動きを支えた。ただ、旧正月以降については、弱含みな荷動き環境が見込まれる。それに伴い、東西航路のザ・アライアンスを中心に、需要減少に対応した断続的な減便を実施予定で、運航コストの削減に努める。
- 空コンテナ回送最適化等の可変費分野でのコスト削減が予想を上回る成果を挙げており、収支改善に大きく寄与。
- 下期の前半においては、旧来のHFOバンカー価格が当初想定を下回り、収支の押し上げ要因となった。1月以降の規制適合油については、ほぼ想定並みの価格で推移する見込み。
- MARPOL2020規制対応では、規制適合油の調達や本船毎の綿密なマイクロマネジメントを行い、12月中に円滑に移行を完了。MARPOL2020規制に伴う追加燃料油コストは想定通りOBS(ONE BUNKER SURCHARGE)等で徴収中。

# 2019年度通期業績予想差異分析（対前回予想）

## 通期業績 対前回予想比較

（単位：百万US\$）



- ❑ 運賃：旧正月以降の短期市況の悪化リスクを反映。
- ❑ 可変費：進行中の競争力強化策が想定以上に進展、下期を通じて改善を見込む。
- ❑ 積高：北米航路往航荷動きはマーケット全体で前年を下回って推移しており、旧正月以降の見込みを前回予想より下方修正。
- ❑ 運航費：第3四半期での減便の運航費削減に加え、第4四半期で想定する追加減便効果を織り込み。
- ❑ 燃料油価格：第3四半期実績の燃料油価格の下落を反映。第4四半期の前提は前回並みに据え置き。
- ❑ 一般管理費：主に代理店料が下落。

# 主要航路別積高・消席率・運賃指数

(単位：千TEU)

航路別積高・消席率		2018年度						
		1Q 実績	2Q 実績	上期 実績	3Q 実績	4Q 実績	下期 実績	通期 実績
北米往航	積高	530	761	1,291	746	627	1,374	2,664
	消席率	73%	90%	82%	95%	88%	92%	87%
欧州往航	積高	312	478	790	442	455	897	1,687
	消席率	73%	90%	82%	92%	92%	92%	88%

2019年度			
1Q 実績	2Q 実績	上期 実績	3Q 実績
669	773	1,442	665
86%	94%	90%	93%
460	488	947	440
87%	95%	91%	92%

北米復航	積高	218	285	502	320	318	639	1,141
	消席率	33%	33%	33%	40%	43%	41%	37%
欧州復航	積高	194	263	457	315	320	634	1,091
	消席率	48%	47%	48%	62%	63%	62%	55%

350	310	660	320
47%	37%	42%	42%
323	328	651	362
64%	64%	64%	72%

(2018年度1Qの各航路総平均運賃を100とした指数)

航路別運賃指数		2018年度						
		1Q 実績	2Q 実績	上期 実績	3Q 実績	4Q 実績	下期 実績	通期 実績
北米往航		100	101	101	108	105	107	104
欧州往航		100	106	104	100	107	104	104

2019年度			
1Q 実績	2Q 実績	上期 実績	3Q 実績
103	105	104	104
100	101	100	98

※2019年度第3四半期 主要航路の減便実績

- 北米 31便 (ONEスペースの13%相当)
- 欧州 12便 (ONEスペースの18%相当)

# 取り組み進捗

2019年度の取り組みと進捗		期初目標額
貨物ポートフォリオ最適化・イールドマネージメント強化	貨物ポートフォリオ最適化に伴う収益改善は想定通りの水準。イールドマネージメントに繋がるオペレーション効率の向上、業務プロセスの合理化による可変費コスト削減は想定以上の効果が出ており、引き続き競争力の強化を進める。	190百万US\$/年
プロダクト（航路・投入船）最適化	期首想定 of 2019年度プロダクト最適化効果、燃料油節減活動による改善策は順調に進捗。各航路では、需要の変化に対応した減便などの冬季プランを執行中。新興市場強化を目指し第3四半期に開設した中東・インド-アフリカ航路、東インド-欧州航路は高消費率を維持 THE ALLIANCEでは来期プロダクトを公表。新メンバーの現代商船も交え、更に競争力のあるサービスを提供していく。	260百万US\$/年
組織の最適化	一般管理費削減計画は想定通りに進行中。E-Commerceの強化やライブチャットの導入を進め、顧客の利便性向上や社内業務効率化を推進。ロボティクスについては社内定型プロセスの一部で導入、引き続き拡大予定。	50百万US\$/年
MARPOL2020対応	本船の規制適合油への切り替えは円滑に完了。OBS等BUNKER SURCHARGEによる追加コストの回収は想定通り進捗。スクラバー設置は、基幹船隊である大型船を中心にスケジュール通り搭載していく予定。加えて、今後も業界の動向を注視しつつ、適合油調達とスクラバー設置の最適な組み合わせを加味して、導入船の拡大に就いて検討していく予定。	
2018年度からの取り組み		
シナジー効果の現出	1,050百万US\$/年間のシナジー効果目標について、統合1年目となる2018年度には82%現出。2年目の2019年度に96%達成、3年目の2020年度に100%達成とする目標に変更なし。	
海外ターミナル事業の移管	親会社からの海外ターミナル事業の移管は2019年度中の実行を目指す。	

# (参考) 2019年度第3四半期 決算概要及び差異分析

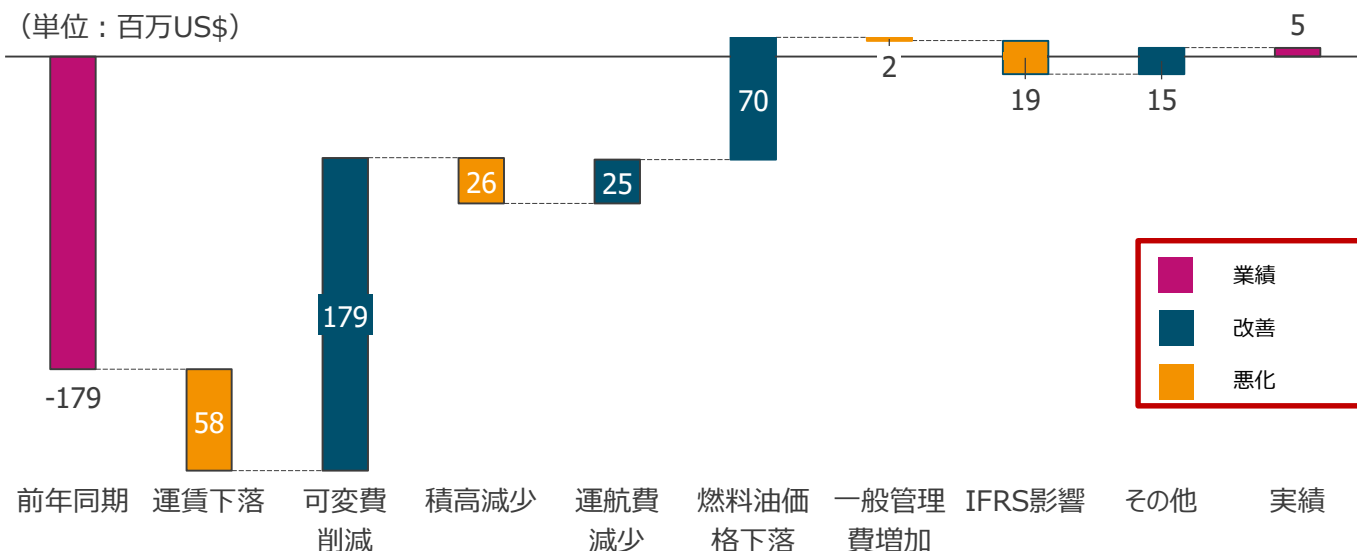
## 第3四半期実績 及び前年同期比較

(単位：百万US\$)

	2018年度			2019年度			3Q		1Q-3Q	
	上期 実績	3Q 実績	1Q-3Q 実績	上期 実績	3Q 実績	1Q-3Q 実績	増減	増減 (%)	増減	増減 (%)
売上高	5,030	3,025	8,055	5,984	2,914	8,898	-111	-3.7%	843	10.5%
税引き後損益	-311	-179	-490	126	5	131	184	-	621	-
燃料油価格 (US\$/MT)	\$434	\$487	\$453	\$427	\$417	\$424	-\$70		-\$29	

## 第3四半期実績 対前年同期差異分析

(単位：百万US\$)



- 運賃：主に北米、欧州で下落
- 可変費：貨物ポートフォリオ最適化効果、コスト削減活動が進展。
- 積高：北米荷動きは対前年で減少。その他の航路は好調。
- 運航費：運航キャパシティは増加も、プロダクト最適化や燃料油節減活動により減少。
- 一般管理費：代理店費用が増加。
- IFRS影響：リース会計基準適用開始による影響
- その他：TAXは増加も、利息収入、為替影響により改善。

# (参考) 船隊構成・航路構成

## 船隊構成

Size	1)2019年9月末		2)2019年12月末		2)-1)
	>= 20,000 TEU	キャパシティ(TEU) 隻数	120,600 6	120,600 6	0 0
10,500 - 20,000 TEU	キャパシティ(TEU) 隻数	363,220 26	363,220 26	0 0	0 0
9,800 - 10,500 TEU	キャパシティ(TEU) 隻数	100,100 10	100,100 10	0 0	0 0
7,800 - 9,800 TEU	キャパシティ(TEU) 隻数	374,655 42	374,655 42	0 0	0 0
6,000 - 7,800 TEU	キャパシティ(TEU) 隻数	233,752 36	227,260 35	▲ 6,492 ▲ 1	
5,200 - 6,000 TEU	キャパシティ(TEU) 隻数	89,998 16	100,910 18	10,912 2	
4,600 - 5,200 TEU	キャパシティ(TEU) 隻数	123,597 25	118,480 24	▲ 5,117 ▲ 1	
4,300 - 4,600 TEU	キャパシティ(TEU) 隻数	71,816 16	71,816 16	0 0	
3,500 - 4,300 TEU	キャパシティ(TEU) 隻数	34,003 8	34,003 8	0 0	
2,400 - 3,500 TEU	キャパシティ(TEU) 隻数	52,916 20	61,125 23	8,209 3	
1,300 - 2,400 TEU	キャパシティ(TEU) 隻数	12,082 7	11,993 7	▲ 89 0	
1,000 - 1,300 TEU	キャパシティ(TEU) 隻数	9,644 9	9,631 9	▲ 13 0	
< 1,000 TEU	キャパシティ(TEU) 隻数	698 1	0 0	▲ 698 ▲ 1	
<b>合計</b>	<b>キャパシティ(TEU) 隻数</b>	<b>1,587,081 222</b>	<b>1,593,793 224</b>	<b>6,712 2</b>	

第3四半期末

## 航路構成

(2019年3Q 往復スペースの構成)

